

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

12月号(NO63)通巻 213号

2023年12月10日(日)発行(毎月10日)

【農暦】花木センターで苗木を買って植えたものが15年も経つと大木化する。!

○朝陽が射し込むと気分がいい。朝陽がないと気分が上がらない。朝陽ある日とない日が交互に来ているようだ。朝陽が窓から射しこむとやる気が起こる。お日様を有り難く感じる。冬至10日前という言葉が最近聴いた。日の入りが一番早い日だという。日本の標準時は明石市なので、その辺に関係がありそうだ。昼間の時間は、やはり冬至が一番短いようだ。

○暑さ寒さも基本的には太陽との位置関係によるが時期的なズレと偏西風の蛇行の変化に大きく影響せれるという。温暖化はそれを極端化する。日替わりで温度差が大きい。一日での温度差もある。着るものに困る。衣替えも死語になりそうである。季節は緩やかに進んで欲しいものである。つるべ落としと云うが暗くなるのが早い。畑仕事をしているとあつという間に暗くなる。



＜玄関先のビオラ＞10日撮影

○COP28はドバイで行われたが、“今年も「化石賞」に輝いた日本。見せかけの環境配慮を評価され、4期連続の快挙。”5日の朝日の素粒子欄にあったが、残念である。ガザも、ウクライナも、ミャンマーも、それに兵器製造もだがCO2削減と真逆のことをしている。国際、国内政治を直さないと温暖化は止められないと暗い気分になる。ガザの殺戮を止められない国際政治は許されない。失望する。気候の異変を感じる度に思うことである。

○花木センターで苗木を買って植えたものが15年も経つと大木化する。ある時期を過ぎると成長が早い。少しずつ剪定と思ったが手に負えなくなって来ている。そんな話しをしたらIさんとFさんが来てくれた。Iさんは子ども食堂へのキャベツ、大野芋などを持参して来てくれた。柿木、プラムの剪定、余分な木の伐採などした。剪定枝の処理も大変だった。まだ一部だけである。判らな事は怖い

○黒豆の選別、キュウイの収穫、菊芋、ヤーコンの収穫などをしながら、畑の片付け、耕起などを行っている。剪定枝の片付けは意外と大変だった。畑の景色が変わった。いいものである。農業資材なども含め続けたいと思っている。(了)



＜耕起した畑＞10日撮影

【楽農】＜畑＞菊芋、ヤーコン、キュウイの収穫。黒豆の選別。畑の片付けと耕起。柿、プラムなどの剪定。剪定枝の片付けなど。

*子ども食堂へキャベツ、大野芋、キュウイなどを届ける。(30日)

【楽市】イベント等；地元クリーン活動(18日)詩吟例会(23日)バードゴルフ大会(6日)共生つばさの会・川柳の会(7日)笠間ふれあい大学川柳講座(10日)

【つぶやき=Tweet】 いやそもそも人類は世界に必要かという話になる！

○8日はパールハーバーの日である。24 百人もの米兵士・民間人が亡くなったという。追悼式典が行われた。こうした式典は二度と戦争をしない決意の場であって欲しい。だが、今も戦争が続いている。昭和世代の人しか知らないかも知れないが、城山三郎は“戦争はすべてを失わせる。戦争で得たものは憲法だけだ”と口癖のように言っていたと云う。城山三郎は、東京裁判（極東軍事裁判）の「落日燃ゆ」の著者であることでよく知られている。東条内閣の閣僚だった岸信介は巣鴨プリズンにA 戦犯として収監されたが釈放され総理大臣になった。城山三郎が戦争で得たものは憲法だけだと云ったが、その憲法が“安保法制”によって骨抜きにされ戦争の出来る国に、そして戦争する国になろうとしている。既に軍事大国に、更に 43 兆円軍備予算を決めている。



<剪定枝を薪材に切る>9日撮影

○戦争に凝れない人がいる。戦場に立つつもりのない人は往々にして好戦的だというのが、殺戮のガザの映像を見るたびに思うのだが、“優しいお父さんが戦場で殺人鬼に変身する。”と云う。止められないものかと思う。朝日川柳に“尖閣に別荘いかが麻生さん(田所)”とあった。麻生太郎副総理が自衛隊の沖縄の前線基地を視察したことを詠んだものだが、おそらく自分や親族が戦地に行くことは想定されていないと思われたのだと思う。敵国があるからと云うのだろうが、敵国も同じに思っていると思う。抑止というのが臨戦態勢に見えて来る。何時まで続けるのかと。そして憲法はと思う。

○世界のリーダーには自分や親族がガザの市民だったらを想像してみたいと思う。そうすれば国際世論もあり、ガザ殺戮が止められるかもしれない。戦争、軍備を語る時、自分が戦地に行くつもりで考えて欲しいと思う。戦争現場は最大の悲惨だが、戦争は世界に貧困と格差を生み出し拡散する。喜んでいるのは死の商人だけである。ホモサピエンスが絶滅危惧種になる前に、パールハーバーの日の記事を見て改めて思った。



<霜降りた畑・全景>3日朝撮

○7日の折々のことばに、“必要不必要で物を論ずる日には、大抵なものは必要で無い。幸田露伴とあった。煙草も紅茶も酒も必要ないといえれば必要ない。それでいくと、おまえは国家に必要か、いやそもそも人類は世界に必要かという話になる。要不要が世の中の標準だなんてご免だと、作家は言う。別な言い方をすれば、不要なものこそ大事なものが多い。必要なものは論ずる必要がない。多くの生き物は必要なもの大事にして生きている。土楽たよりもどうしても必要なものではない。だが無いと空疎なものが残るかも知れない。(了)

○断捨離考：不要な物に埋もれ今年もか？反省

【後記】人類が絶滅危惧種になる前に【HP転載】

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話：090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com